

別記

通達

函館大火罹災無産者を救援せよ

去る三月二十一日函館市に起つた火災は、風速三十米以上の大烈風に煽られ、全市火の海と化し、三万五千戸を焼き掛へ、一千名の死者を出し、重軽傷者数千名に及び、罹災者十五万人と云ふ未曾有の大惨害は、眞に言語に絶する情態である。此のことは毎日の新聞紙に依つて報導され、大正十二年の過ぐる大震災災を想起せしめ、肌を粟せしめしめるものがある。

特に労働者や無産市民の惨情は目に余るものがある。今や函館大火の罹災民救援は、全國津々浦々より叶はれ、賑い救援の手は差し延ばされ、今や函館大火の罹災民救援のトンド底より救ふものは、救援の手以外に方法は無い。

函館罹災民の救援こそは、又我々のなさねばならぬことだ。

本部は函館大火罹災民救援運動を起して、我々の賤い手を、北海の隣に在る罹災民に差し延べんとするものである。

全支部は至急適宜の方法により救援金を集められ、ことを依頼する。

集まつた救援金は本部會計に納入され、本部は配給に因しては、充分調査研究して、最も有効なる方法により罹災者に贈り、同情者に答へんとするものである。

右至急全支部に於て救援金を集められ、ことを通達す。

三月二十四日

支前御中

東京交通労働組合本部